

令和5年6月8日

まちづくり委員会資料

公園等における若者文化施策等と連携した
施設整備の考え方について

建設緑政局

1 背景と課題

公園緑地は、多様な機能を有する緑の貴重なオープンスペースとして親しまれてきましたが、社会状況の変化に伴いその重要性がより一層高まるとともに、一層柔軟に使いこなすことが重要な観点であるとされています。

東京2020大会や本市をホームタウンとするプロスポーツチームの活躍などの影響により、公園の広場や河川敷などで、バスケットボールやスケートボードなど若者文化を構成するコンテンツを楽しむ人が増加していますが、騒音や利用マナーなどに課題があることから、令和4年4月時点では、1,275か所の公園のうち、バスケットゴールのある公園が6か所、スケートボードパークのある公園が1か所と環境の整備は進んでいない状況です。

「若者文化の発信によるまちづくりに向けた基本方針」と連携し、公園では、若者文化を構成するコンテンツのうち、バスケットボールやスケートボードができる環境整備については多数要望をいただいております。地域特性に応じた特色のある公園緑地の整備推進に向けて若者文化施策等と連携し、令和4年10月から「施設整備の考え方」の取りまとめに向けた取組を進めてきました。

2 令和4年度の既存公園における実証実験の概要

施設整備に向けた考え方の整備条件を確認するため、次のとおりバスケットゴールを設置し、地域における利用ニーズと設置条件を確認する実証実験を行っています。また、スケートボードについても体験会によるニーズ確認を計画しましたが、雨天のため、中止としました。

- ①設置期間 令和4年10月～令和5年10月※
※設置後の利用状況や近隣住民等の意見を踏まえ、常設化に向けた施設の利用ルールや設備等の改善を検討するため延長
- ②設置箇所 御幸公園（幸区）、鷺沼公園（宮前区）
- ③実験内容 利用ニーズ、周囲への影響（騒音、マナー）を把握、機運醸成
- ④設置状況

	御幸公園(大人用ゴール)	鷺沼公園(子ども用ゴール)
設置箇所		
現地写真		

3 実証実験の結果

(1) 利用状況

平日、休日において定時で確認した利用者数を基に利用者数を推計したところ、次のとおり利用されています。また、3x3大会には、6枠のチーム募集に対して、46チームの応募があり、観客数も400人を超える方に観戦されました。また、バスケットボール体験会についても全ての募集枠が埋まり、抽選となりました。一方で、スケートボードの体験会を池上新田公園において計画しましたが、募集定員を下回る結果となりました。なお、イベント自体は雨天のため、中止としました。

	御幸公園	鷺沼公園
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生から大人まで ・親子連れの利用も多い ・平日の朝や夜間も利用 ・放課後や休日の利用が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児、小学生、中学生が中心 ・親子連れの利用も多い ・平日の午前、夜間の利用はない ・休日は朝から利用多い
日当たり推計利用者数	平日約90人、休日約110人	平日約50人、休日約130人
3x3大会関係	—	6チーム(応募数46)、観客数400人
体験会参加者数	34人(応募88人)	56人(応募161人)

『公園等における若者文化施策等と連携した施設整備の考え方』

～地域特性に応じた特色のある公園緑地の整備推進～「若者文化施策等と連携した施設整備」施設整備の方向性

- ①地域の子どもや若者が日常的にスポーツに触れることができる場を公園の広場等に確保する
- ②公園への設置要望が多く、過去の整備事例を踏まえた課題への対策を予測できるバスケットボール及びスケートボードから取り組む

整備場所の考え方

公園の広場等のうち一定の広さがあり、既存の利用と共存できる場所を選定

ア 整備に適した条件の整理

既存公園の設置事例や苦情等の実績から騒音に対する条件を抽出するなど、管理面積や隣接する住宅と距離が一定以上離れているといった施設整備に適した公園の条件を整理します。

(仮定の条件)

- ①管理面積2,000㎡以上、 ②広場と隣接住宅との距離100m以上or高低差あり
- ③高架下、線路や幹線道路に隣接している、 ④トイレがある公園

イ 条件を満たした公園における実証実験の実施

予見に基づき選定した公園や河川敷等において数か月の期間にわたり施設を設置し、利用ニーズや騒音の影響などを確認

公園 13か所、
河川敷 23か所

連携

『若者文化の発信によるまちづくりに向けた基本方針』 ～基本的考え方～
「若者文化に携わる市民一人ひとりが主役となって本市の若者文化を盛り上げていくこと」

『若者文化の発信によるまちづくりに向けた環境整備等に関する基本計画』 ～環境整備におけるコンセプト～「行き交う日常と非日常」

日常の施設の整備の方向性

- ・将来的には、日常的に練習ができるような比較的小規模な施設が市内にバランス良くある状態を目指す
- ・地域により確保できる用地やニーズ等に差異があるため、全てのコンテンツが同じ場所にあることを前提とはしない

整備場所の考え方

- ・必要な面積は概ね1,000㎡程度（他都市事例から）
- ・鉄道駅から比較的近傍であることが望ましい
- ・夜間の利用が可能であることが望ましい
- ・地域住民の理解が得られていること

- ・候補地として、既存の公園や低未利用地などを想定
- ・体験会などの開催により若者文化の認知度向上や機運醸成を図り、地域のなかで具体的な施設へのニーズが高まったところから整備に向けた取組を開始

(2) 利用者からのアンケート結果等

御幸公園	<p>【設置に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置に賛成が多数（賛成N=106件、反対N=1件） ・待ちに待った、望んでいたゴール設置。このまま常設を心から強く希望する ・バスケット以外、ボール遊びや練習が出来るスペースがなくなる ・自転車で20分で来ることができるので助かる ・ゴールができて、学生ぶりに運動するようになった ・子どもが元気に遊べるのでよい ・休みの日は子どもたちで溢れている ・住宅地のそばにおいてバスケットボールをする一部利用者があることから、設置を反対 <p>【整備内容に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待っている子が多いので、もう1基あるとよい（大人用、子ども用があると良い） ・砂の舗装だと足が滑るし、手が汚れる ・バスケゴール利用者が隣接する園路に飛び出さない対策が必要 ・荷物が置けるようにベンチが欲しい
鷺沼公園	<p>【設置に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置に賛成が多数（賛成N=113件、反対N=0件、どちらでもないN=1件） ・子どもがバスケットボールが好きだが、近くに子どもが気軽に練習できる場所がないためぜひ設置を継続してほしい ・子どもたちが遊ぶ場所が限られているので、取組を応援する ・設置に賛成 ・子どもと一緒に遊べるのがうれしい ・子どもたちの遊びの種類が増えてよい ・夏休みの時期も実験すべき（夜間利用が増えるのは夏だと思うので） <p>【利用マナーに関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部の小中学生がグループで使い続け、他の人が利用できなかったことがあった ・コート外の遊具広場で遊ぶ子がいる ・時間（8：30～17：00）を守るように子どもたちや保護者が声を掛け合っている <p>【整備内容に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう1基あると小さい子と大きい子が分かれて遊べる ・荷物が置けるようにベンチが欲しい

※WEBアンケート、施設利用へのヒアリング、施設利用者以外へのヒアリング等

【実証実験のとりまとめ】

- ・いずれの設置箇所もバスケットゴールは、子どもから大人まで幅広く利用されており、**利用ニーズが高い。**
- ・実証実験をした2か所では、**騒音やマナーについては、大きな苦情にならなかった。**また、御幸公園については、夜間利用も可能であった。
- ・具体的な整備内容（ゴールの基数、舗装、ベンチ等）について要望があった。

【実証実験を踏まえた方向性】

実証実験を踏まえ、**公園等におけるバスケットゴールの整備の考え方を整理**するとともに、実験を行った2か所については、整備内容への**要望を踏まえた整備を実施**（複数のゴール、舗装、ベンチ等）

4 公園等における若者文化施策等と連携した施設整備の考え方

～地域特性に応じた特色のある公園緑地の整備推進～
「若者文化施策等と連携した施設整備」

●施設整備の方向性

- ①地域の子どもや若者が**日常的にスポーツに触れることができる場を公園の広場等に確保**します。
- ②実証実験の結果を踏まえ、「公園等におけるバスケットゴールの整備の考え方」を以下とする。なお、スケートボード等については、今後、実証実験を行い、ニーズや立地条件等を踏まえ、整備の考え方を更新します。

公園等におけるバスケットゴールの整備の考え方

(1) 既存公園に整備する際には、広場等のうち一定の広さがあり、既存の利用と共存できる場所を選定するものとし、次の条件を満たす箇所を候補とする

- ア 管理面積2,000㎡以上
- イ 設置箇所と隣接住宅との距離100m以上もしくは高低差がある
→設置箇所に公園灯がある場合は、この条件を満たした場合でも夜間利用の有無に配慮が必要
- ウ 線路や幹線道路に隣接
- エ トイレがある公園

(2) 条件を満たした公園等における整備の進め方

条件を満たした箇所において、**一定期間バスケットゴールを設置し、利用ニーズや騒音の影響などを確認した上で、常設化に向けた整備を行う**

※なお、(1)の条件を満たさない箇所での設置要望も想定されるが、その際は地域との合意形成や立地条件などを確認し、本設の可能性のある箇所は、本考え方と同様に実証実験を行った上で判断する。

●今後の進め方

- ・整備条件を満たした13か所の候補地から、考え方に基づき取組を進めます。
- ・スケートボード等についても、「公園等におけるバスケットゴールの整備の考え方」を基本に**実証実験を行い、ニーズや条件等の整理を行います。**
- ・整備条件を満たした13か所以外については、地元要望等を踏まえ、整備の考え方を参考に取組を進めます。

設置候補

(川崎区)池上新田公園、浮島町公園、小田7丁目公園、下河原公園
(幸 区)御幸公園、新川崎ふれあい公園
(高津区)春日台公園
(宮前区)鷺沼公園、西長沢公園
(麻生区)王禅寺ふるさと公園、五力田高尾根公園、虹ヶ丘公園、万福寺檜山公園

5 その他関連施設の取組状況

ア 旧幸町交番隣接道路用地（公園等と一体活用が期待できる道路用地）における暫定利用

拠点駅である川崎駅から徒歩圏内にあり、新たな利活用等の可能性があることから、バスケットゴールを設置し、近接する多摩川見晴らし公園等との連携も視野に、地域における利用ニーズの確認等を行うため令和5年1月下旬から社会実験を実施しています。



道路用地の活用状況

イ 多摩川河川敷（登戸地区広場周辺）における実証実験の実施

地域の企業・団体等と連携しながら、持続可能な水辺の新たな利活用に向けた社会実験「登戸・多摩川 カワノバ」の一つの取組として、令和4年7月からコンクリート舗装の供用を開始しております。なお、カワノバの取組については、様々な利活用によって、地域の魅力を高めることができる一方で、一部の利用者のゴミ投棄や騒音等の課題も生じていることから、定期的に地域の方々や利用者等との意見交換等を行い、よりよいカワノバを目指し、取組を進めています。



カワノバの状況

6 民間活力導入の検討

施設の拡充や施設管理の持続的な運営に向けた民間活力導入の可能性について、施設のアイデアや場所の条件、種目等を、PPPプラットフォームの意見交換会により確認しました。

- ・参加事業者 13社
- ・主な意見：初心者層が安心して利用できる施設が少ない。スケボーパークが足りていない。施設の設えを競技に寄せると外から人が来る。商業的見地でどう公園の価値を上げていくかを考えている。



本取組については、民間事業者からも高い関心を寄せられているため、今後、公園の再整備などの機会をとらえ、PPPプラットフォーム等において、事業性を確認する。

7 他都市の動向等

他都市においても整備が進んでおり、設置事例が増えている。また、本市の取組についても、他都市から問い合わせ等を受けている状況であり、同様の取組の広がる見込み。



横浜市谷本公園



相模原スポーツ・レクリエーションパーク

8 スケジュール

実証実験を通じてとりまとめた「公園等における若者文化施策等と連携した施設整備の考え方」に基づき、魅力ある公園づくりに向けて関係する施策と連携して取組を進めてまいります。なお、スケートボードなど今後の実証実験を通じて確認するニーズや立地条件等を適宜反映し、本考え方を更新してまいります。

